

■長浜まちづくりワークショップにおける中学生・高校生からの提案事業一覧

日 時	平成27年8月2日(日)9時30分～16時
場 所	長浜市役所西館1階 多目的ルーム
参加者	48名(中学生39名、高校生9名)
テーマ	1億円プロジェクト さあ君ならどう使う？！

事業名		事業概要	提案理由	事業効果	事業予算額
1	花火大会の活性化事業	花火大会の発玉数を増やすことで観客の満足度を高めるとともに、マスコットキャラクターを作成し、これまで以上に宣伝する。	花火大会の規模が年々縮小している感があり、夏の風物詩である長浜の花火大会をより盛大に催行するべきである。	観光客の増加が期待できる	500万円
2	長浜の歴史との関連企画事業	長浜の魅力をさらに高めるべく、市内の歴史・文化施設を巡るスタンプラリーを実施する。	長浜が持つ歴史・文化のポテンシャルを十分に活かしきれていない。素晴らしさをより多くの人に発信し、観光客として現地に来てもらうことで、観光客の増加を図るべきである。	観光客の増加が期待できる	500万円
3	除雪大作戦！	除雪路線を延長し、より丁寧に除雪する。	民家が連なる住宅街など、十分に除雪されていない場所がある。また、消融雪設備が老朽化し、十分に機能していない場所がある。	交通事故が改善し、安心・安全な市民生活が実現できる	9000万円
4	市北部地域における病院の整備	既存の市立湖北病院を拠点として、県北部と福井県嶺南地方をカバーする大きな病院を整備する。山間部への往診を可能とし、ドクターヘリの受入をはじめ、救急医療にも対応する。	市の北部地域には大きな病院が少なく、緊急時に市南部の病院に行くのに時間がかかる。生命の尊さは等しく、誰もが同レベルの医療を受ける必要がある。	湖北病院を拠点とし、県北部と福井県嶺南地方をカバーすることができる	1億円
5	保護施設の整備	行き場のない子ども達やホームレスなどを保護できる更正保護施設を整備する。同施設では、保護した子ども達へはボランティアで授業を提供し、ホームレスへは仕事場を提供する。	身寄りのない人、生活環境に恵まれない人、社会生活上の問題がある人への対応が必要である。	行き場のない子ども達やホームレスが直面する夏の熱中症、冬の凍死などの恐れを軽減することができる。また社会復帰に向けた基礎を支えることができる。	1億円
6	小中学校に行く！	様々な理由により学校に行けない子ども達にお金を支援することで、就学の機会を確保する。	お金がなく、学校に行けない子ども達を支援したいと思ったから。	学校に行きたくても行けない子ども達が、少しでも学校に行けるようになる。	2000万円
7	芸能人を呼ぶ！	長浜ドームなどの市内施設に有名な芸能人などが登場するコンサートやイベントを催し、県内外から誘客を促進する。	長浜ドームなどに芸能人が来ることが少なく、寂しく思うから。	他県からも多くの人が訪れ、地域の活性化が図れる。	3000万円

事業名		事業概要	提案理由	事業効果	事業予算額
8	地球温暖化	市内に水素ステーションを設置し、水素燃料電池自動車の普及を図る。	水素ステーションは近畿地方に兵庫県にしかなく、全国に率先して長浜市が取り組んではどうかと考える。	ガソリンによる二酸化炭素排出が抑制され、僅かながら地球温暖化を防止できる。	5000万円
9	ふくごう施設の建設	公民館や図書館、学童施設、老人ホーム、飲食店、映画館などの娯楽施設が一つにまとまった施設を整備する。	核家族化により、放課後に一人で自宅で過ごす子とその親の心配を解消する。また、地域の人が集まれる場所を提供することで、結びつきをより強くし、互いに助け合える“絆”の関係を作る。	親の心配を解消することができ、世代・年代を問わず交流できるため、結びつきがより強まり、絆が生れる。また、一つの施設に多機能を集約することでコストダウンにつながる。	1億円
10	じっちゃん・ばっちゃん応援事業	買い物弱者問題がある中山間地において、小さくていいのでコンビニ程度の店舗を作り、食品やお弁当、飲み物、トイレトペーパーなどの生活必需品を販売する。	田舎の人は、地域に店舗が少なく困っているから。	わざわざ車で遠くのスーパーまで買い物に行かなくても、地域で必要なものをそろえられるようになり、生活利便性が高まる。	4000万円
11	ドクターペイシエント応援事業	病院にお金を寄付し、それを原資に最新の医療機器を整備し、難病に対応できる医療体制を整備する。	難病にかかった場合、現在では遠くの病院まで治療に行かなければならず、病人にとって大きな負担となるから。	これまで都会の他の病院に移らなければならなかった人が、近くの病院で治療できるようになる。	3000万円
12	複合施設を作る	長浜のシンボルとなり、育児、介護、娯楽、そして目玉となるライブ会場を兼ね備えた大規模ショッピングモールを整備する。	長浜のシンボルとなり、長浜のまちに足りていない機能(映画館・ライブ会場)も兼ね備えた一体型モール施設がほしいから。	子どもからお年寄りまで、幅広い世代が集い、楽しむことができる。また市内外から多くの人が集まり、活性化に寄与する。	1億円
13	マイナスからプラスへ 空き家問題を利用してまちづくり	空き家問題を一つの契機として、空き家を利用して老人ホーム兼託児所を整備する。また街路灯を設置する。	高齢者の方々が地域の子ども達と接する機会が減少していることから、老人ホームと託児所を一緒に設置することで、ふれあう機会を増やそうと思ったから。	使われていない土地や建物を有効活用することができる。また一緒にすることで、子ども達はお年寄りから様々なコトや知恵を教えてもらうことができ、一方でお年寄りは子どもから元気をもらうことができ、互いに良い刺激になる。	1億円
14	動物との共生を目指して	鳥獣害を防ぐため、防止柵を設置する。また、山に植林し、動物の食料環境を保全する。一方で、猟友会の協力をえて動物の数を特定数へと減少させ、駆除された鹿や猪の肉を提供するレストランを整備する。	食糧不足により里に下りてくる動物により、周辺の村の畑の作物が荒らされたり、住民が襲われる被害が発生することから。	動物が里に下りてくることが減少する。また鹿肉や猪肉を提供するレストランが繁盛することで、観光地として人々を呼び込み、村の過疎化を抑制する。	9500万円